

# 令和4年度事業報告書

社会福祉法人 埼玉医療福祉会

# 令和4年度 事業報告

令和4年度は、度重なる新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大により、患者・利用者や医療・福祉施設・教育にも様々な制限が生じ、運営面と財務面に大きな影響を受けました。更に人口減少の進展による社会保障の問題や労働人口の減少等、医療・福祉を取り巻く環境は大変厳しくなっております。

当法人においても、新型コロナウイルス感染症に対して感染防止策を強化することで、受け入れが制限されたほか、患者、職員、職員家族の感染により稼働に影響を受けました。

このような厳しい環境下、現状把握や課題の抽出・改善活動を目的に病院機能評価を受審しました。また、デジタル改革タスクフォースを設置し、業務の効率化と生産性の向上に取り組みました。地域包括ケア病棟では救急指定の準備に取り組み、精神科部門では機能拡充を目的に精神科医を増員し、感染症対策として個室を増室するなど感染対策の徹底と事業正常化の両立に取り組みました。人材確保においては介護士育成を支援するため、介護人材育成支援制度に係わる連携協定先の拡充と奨学金の活用に取り組みなど、社会福祉法人として地域の少子高齢化対策、感染症対策、地域包括ケアシステムの推進、介護人材の育成に寄与してまいりました。

以上、令和4年度は、前年に引き続き新型コロナウイルス感染予防と地域包括ケアシステム構築の更なる推進を行った年といえます。そして、令和5年度は第7期長期総合計画『挑戦』の初年度として、医療と福祉が融合した理想郷の実現に向け、引き続き地域包括ケアシステムの推進に取り組み、様々な人や施設と手を取り合い、システムの強化を行っていきます。

結びに、埼玉医療福祉会は基本理念と基本方針、役割、そしてミッションである「Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS」を実践することにより、医療福祉サービスの質の向上を図り、地域福祉の充実に貢献するとともに、高い公共性と倫理性をもって、安心した働きやすい職場づくりと適正かつ活力ある法人運営に努めてまいります。

## 1. 基本理念

『限りなき愛』

《ミッション》

Your HAPPINESS Is Our HAPPINESS

## 2. 基本方針

- ① すべての病める人々にまごころをもって臨みます。
- ② 安全で質の高い医療・福祉を実践します。
- ③ 地域の医療・保健・福祉機関との連携を密にします。
- ④ 高い技能を持つ心豊かな人材を育成します。
- ⑤ 埼玉医科大学病院群との連携を密にし、第4病院としての使命・質の向上を図ります。

## 3. 役割

- ① 地域包括ケアシステムの中核的病院・福祉施設としての役割
- ② 埼玉医科大学病院群の第4病院としての役割
- ③ 福祉施設の関連病院としての役割
- ④ 行政の委託機関としての役割
- ⑤ 実習施設としての役割

# 法人部門

## 1. 運営実施状況について

### ① 顧客の視点

- ・介護人材育成支援制度に係わる連携協定に基づく、奨学金返済支援制度の活用による採用実績が4名となった。
- ・丸木記念医療福祉総合基金の運用による奨学金を活用して、介護人材養成校との連携協定を締結した。

### ② 業務プロセスの視点

- ・ケアワーカーの人材不足を解消するためのリクルート活動にあたり、感染症対策の徹底や、オンライン就職説明会の開催、SNSの活用などの求人活動の改善を図り、人材獲得に注力した。
- ・現場の生産性向上と、各種データの活用を目的に、デジタル改革タスクフォースを設置し、Wi-Fi環境の構築、ペーパーレス化の推進、オンライン面会の活用、デジタル広報の推進等、業務のデジタル化に取り組んだ。

### ③ 財務の視点

- ・新型コロナウイルス感染症や、物価高騰支援に対する補助金管理を行い、適切に実施できるよう、各部署との調整し、財源を確保した。
- ・月次決算を用いた予算管理の強化及び各施設への情報共有化を推進した。また、各施設の収支状況の把握に注力し、各事業の経営戦略立案に寄与した。

### ④ 学習と成長の視点

- ・介護福祉士実務者研修養成(通信)を実施し、14名の介護福祉士候補を養成し、8名が介護福祉士を取得した。
- ・インボイス制度・電子帳簿保存法の改正などの社会的変化に対応するため、システム連携及びクラウドの導入検討会を実施した。

# 丸木記念福祉メディカルセンター

## 1. 精神科部門

新型コロナウイルス感染拡大による病棟機能の低下や、高齢社会の進展による認知症患者の増加、精神科長期入院患者の高齢化に対して、精神科に関わる個々のスタッフが尽力し、入院患者の適切な体調管理に取り組んだ。病院機能評価の受審による現状把握や課題の抽出をつうじて、認知症対応医療機関としての充実に向けて、医師の増員、感染症対策と療養環境向上を目的に個室を増室した。地域連携業務として、一般住民や専門職向けに主催研修会や講師派遣を 25 回(うち認知症サポーター養成講座が 9 回)実施した。

今後も地域連携の推進による入院患者確保の強化に取り組み、社会変化に対応した病棟機能を検討し、精神科一同気を引き締めて地域の精神科医療の要としての使命を果たしていく。

## 2. 一般科部門

令和 4 年度は地域包括ケア病棟を維持するために救急受け入れ態勢の構築、地域の関係機関との連携体制の強化による受け入れ期間の短縮など、地域包括ケアシステムの更なる強化に取り組んだ。入退院支援室を開設し、地域包括ケアシステム推進のために円滑な入退院支援に取り組んだ。各種医薬品の使用状況・金額を基に、採用品目を随時見直し、医薬品の安定的な供給と収支バランスの改善に取り組んだ。・患者・利用者の満足度を高め、選ばれる病院、選ばれる施設を目指すため、コンビニエンスストア決済を導入した。

## 3. 介護老人保健施設薫風園等

介護老人保健施設薫風園は、社会福祉法人としての役割を果たすべく、法人の基本理念・基本方針・役割・法人全体の事業計画を踏まえ、各種事業を展開した。令和 4 年度は介護老人保健施設等の稼働向上と様々な利用者ニーズに対応した。利用者の増加に対応して通所リハビリとデイサービスの定員を変更した。ケアハウスでは入居者の超高齢化の進展に対応して、看護師による当直体制を開始し、安全確保と健康管理の向上を図った。ケアハウスでは広域的な広報による認知向上を目的として、ホームページを新たに作成した。

今後も感染対策を継続しつつ、職員間でのアイデアの共有や広報活動の強化による利用者の確保、更には地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療・介護・生活支援・介護予防等、当法人の特徴や強みを生かし、各種サービスの提供と質の向上に取り組む。

## 4. 暮らしワンストップ MORO HAPPINESS 館

当施設は、医療・介護・福祉の相談に一元的に対応するとともに、在宅診療・看護・介護の拠点として、多職種連携を基本に推進してきた。令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しつつ、新型コロナウイルスワクチン集団接種に取り組み、医療的なケアを必要とする児童の在宅医療を開始するなど、地域を支える医療機関としての役割を果たした。関係機関連携を基とした、安定的な運営体制を確保するため、単独機能強化型在宅療養支援診療所から連携機能強化型在宅療養支援診療所へ変更した。ICT や連携アプリによる生産性向上に取り組み、AI によるケアプラン作成支援を活用した効率的・効果的な業務を行った。アドバンスケアプランニング(ACP)普及啓発講師登録人材バンク事業に協力した。

引き続き、グループの構想である「医療と福祉の理想郷」の実現、広域的な地域包括ケアシステムの前線的な役割を担えるようにスタッフが一丸となり取り組んでいく。

## 5. 特別養護老人ホーム ナーシングヴィラ本郷

令和 4 年度も法人の理念である「限りなき愛」、そしてミッションである「Your HAPPINESS is Our HAPPINESS」に基づき、「ご利用者・ご家族・地域社会から信頼され、安心してご利用いただける施設」を目標にして、職員一丸となって介護サービスの提供に努めた。

感染症に関する事業継続計画(BCP)の作成に取り組み、対応手順の統一化を行った。リフター等補助機器や見守り機器等が定着し、生産性の向上と利用者の重度化による職員への負担が改善した。介護福祉士の取得をすすめ、EPA 介護福祉士を含めて多くの常勤職員が取得した。新たな加算(栄養マネジメント強化加算)を取得し、利用者サービス向上に取り組んだ。引き続き、業務の効率化に向けた職場環境の整備や、外国人人材の活用を含めた人材確保・職員教育に取り組む。

## 6. 地域活動支援センターのぞみ

令和 4 年度は、感染対策と施設運営の両立に努めた。利用者の健康管理や精神状態、高齢化による身体機能低下に配慮しつつ、感染拡大時に中止したプログラムの再開に取り組み、施設内での感染対策の徹底も継続して取り組んだ。利用者の利便性向上、新規利用者獲得のため、他市において出張地活事業を再開した。

今後もスタッフの資質向上に努め、情報発信や、家族会、他機関に対しての講演会の開催などの障害福祉に関する普及啓発活動を、感染症対策を徹底した状況下で実施し、地域の福祉施設としての役割を果たしていく。

## 7. 障害者自立支援施設やすらぎ・グループホームいこい

令和 4 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止策の徹底、及びコロナ禍においても行える支援形態に取り組むことを目標に事業に取り組んだ。利用希望者の性別による入所待機期間を改善するため、入所者の性別毎の居室数を見直し、仕切り壁の設置を計画した。新型コロナウイルス感染症対策により、卒寮支援や個別支援に必要となる関係機関との連携に制限が出る中、支援内容を見直し、卒寮者に適切な支援を行った。地域の医療・保健・福祉機関との連携を密にし、緊急な受け入れ要請や困難事例等幅の広い受け入れに努めた。また、希望者が早期に利用開始できるよう入所申請書類を見直すことで、入所待機期間が短縮した。

今後も、継続的に利用者数の向上を常に意識した収益体質(収入増)や、業務のデジタル化に取り組み、生産性の高い運営を目指す。

## 8. 毛呂山町老人福祉センター山根荘

令和 4 年度はガイドラインに基づいた感染対策の徹底や、利用に際して人数・時間の制限を行うとともに、従来の活動を目指して徐々に再開したことで利用者数は回復に向かった。利用に際しては感染防止策を行った上でのサービス提供や、館内環境の改善を行い、地域住民が健やかに暮らす一助になれるよう取り組んだ。ガイドラインに従って感染対策を徹底し、月例会やサークル活動、連合寿会などの事業を徐々に再開した。利用者が通信情報機器を活用できるよう館内に Wi-Fi を設置し、利便性向上に取り組んだ。地域住民のフレイル予防に寄与するよう、くらしワンストップ MORO HAPPINESS 館との共同企画の再開に向けて、準備に取り組んだ。多様な人材の確保に取り組み、65 歳以上の高齢者や障害者雇用の受け入れをすすめ、継続的な労働環境の構築に取り組んだ。

## 光の家療育センター

光の家は開設 56 年を迎え、入所利用者の高齢重度化が急速に進み、高齢重度化による影響があったことがわかる。それに伴い、職員の看護・介護負担が増大している状況と少子高齢化の影響で働く職員の確保が困難な状況である。それに対応する為、この数年は職場環境改善、職員育成支援、で求人活動に尽力した。埼玉県福祉分野におけるロボット等導入補助金により、介護用リフターを更新することができた。これより、職員の介護負担軽減と腰痛による離職防止につながった。

運営面では各リーダーと現状を共有し、入所利用者の処遇について、with コロナの活動を目指して行事等を再開した。また、全入所者の後見人(家族)との入所契約を行い、利用者の処遇等について説明ができた。ワンダーハウスでは今回初めての試みで、埼玉医科大学越華祭実行員会の主催で、10 月 14 日から 16 日の 3 日間に毛呂山町の「あたらしき村」にて入所利用者の絵画展示会「新しき光」展を実施した。来場者は 3 日間で 62 名であった。入所者を積極的に受入れたが、今後も入所者の体調管理に取り組み、社会資源必要とされる施設づくりと安定運営に努力していきたい。

## 看護専門学校

令和 4 年度については、より優秀な学生確保のため、募集活動等を主要課題としたが、新型コロナウイルス感染症の影響により学生募集に関する活動が限定的な実施となった。

「高等教育の修学支援新制度」については、対象学生に対して支援を実施した。

日常の学校教育については、学生一人ひとりの特性を尊重し学習の支援を行い、専門知識や技術習得を学ぶだけでなく、社会人としての教養と豊かな人間性、専門職業人としての倫理観の育成を目指し、学生支援を行う事などを教育の基本方針として実践した。

### 学生確保

- ・教職員による学校訪問を実施し、採用担当職員が埼玉県・西東京の高校 70 校にアプローチした。学校説明会は、参加人数を制限し、感染対策を実施した上で年間 8 回開催した。
- ・令和 4 年 6 月、「高等教育修学支援新制度」の更新申請を実施した。

### 入学試験実施状況

- ・看護学科：学校推薦・社会人選抜・一般選抜Ⅰ期・Ⅱ期を実施し、志願者 132 名、受験者 125 名、合格者 90 名、入学者 79 名

### 学生指導・国試指導

- ・一年次から計画的に国試受験対策を実施している。特に最終学年においては模擬試験の成績結果を個別指導強化に活用した。
- ・令和 5 年 2 月 12 日に第 112 回看護師国家試験が実施され、新卒合格率が 87.3%であった。今後も学生指導に力を入れていく。

### 就職支援(新卒国試合格者)

- ・看護師国家試験合格者の進路は、合格者 62 名、内 61 名 98.4%の学生が埼玉医科大学グループ内の関連病院に就職した。今後もグループ内の看護師安定供給に尽力する。